



より、社会の病を治したい」という志のもと、辛亥革命へとつながる革命活動に尽力することとなります。そんな彼とゆかりのある長崎県関係者として、『東洋日の出新聞』の社主 鈴木天眼や、小説「姿三四郎」のモデル 西郷四郎、長崎県出身の金子克己、渡邊元、梅屋庄吉などがいます。

### <長崎近代交流史と

#### 孫文・梅屋庄吉ミュージアム>

長崎が日本の近代化に果たした役割や、孫文と梅屋庄吉の国境を越えた厚い友情とその功績について紹介しています。(所在地：長崎市松が枝町4-27)



(提供:長崎歴史文化博物館)

### (2) 日本と朝鮮との交流の懸け橋と

#### なった朝鮮通信使と対馬

豊臣秀吉による朝鮮出兵により日本と朝鮮国の関係は途絶え、室町時代以来続いた朝鮮通信使の往来はストップしました。その後、対馬藩による粘り強い交渉の末、1607年に朝鮮通信使は復活しました。朝鮮通信使は、以来1811年までのおよそ200年の間に12回に亘り日本を訪れ、両国の人々の相互理解を深める



対馬厳原港まつりにおける朝鮮通信使行列再現の様子 (提供:県国際課)

ことに大きく貢献しました。また、対馬藩は朝鮮との窓口として両国の交流に大きな役割を果たしました。対馬では今も、行列再現など様々な交流行事が活発に行われています。両国の民間団体が、この交流の歴史を世界の人々に伝えるため、対馬や壱岐をはじめ両国に残る朝鮮通信使に関する資料をユネスコ「世界の記憶」に登録するため取り組み、平成29年10月31日に登録されました。

### 長崎県としての取組

#### ～中国・韓国との交流の歴史を未来へつなぐ～

これからの長崎県と中国・韓国との新しい交流を築いていくのは、次代を担う若者たちです。そこで、長崎県では、若者たちが中国、韓国との今後の友好交流について考える「孫文・梅屋庄吉塾」、「日韓未来塾」、「日中韓トライアングル交流会」が開催されています。

日中「孫文・梅屋庄吉塾2016」グループ討議の様子



釜山広域市 甘川文化村での文化体験 「日韓未来塾2016」



「日中韓トライアングル交流会」での集合写真

(上記3点 写真提供:県国際課)

### <友好交流都市 釜山広域市>

朝鮮通信使が日本に向けて出発した釜山広域市と長崎県は、2014年に友好交流協定を結びました。本県の対馬市から釜山広域市までの距離はわずか49.5kmであり、古くから交流が行われてきました。今でも対馬市などを中心に活発な交流が行われています。